

令和5年度
(2023年度)

〔令和5年4月1日から
令和6年3月31日まで〕

事業報告書
(大阪薫英女学院高等学校・中学校関係抜粋)



学校法人 薫英学園

事業報告書

令和5年度(2023年度)事業報告
(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

I 法人の概要

(1) 基本情報

- ① 法人の名称 学校法人 薫英学園
- ② 主たる事務所
住所 〒566-8501 大阪府摂津市正雀1-4-1
電話番号 06-6381-6548
FAX 06-6319-1505
ホームページアドレス <http://www.kun-ei.ac.jp/>

(2) 建学の精神

本学園は、昭和6年(1931年)に創設された教育機関であり、令和5年6月に創立92周年を迎えました。この間、一貫して堅持してきた建学の精神は「敬・信・愛」です。

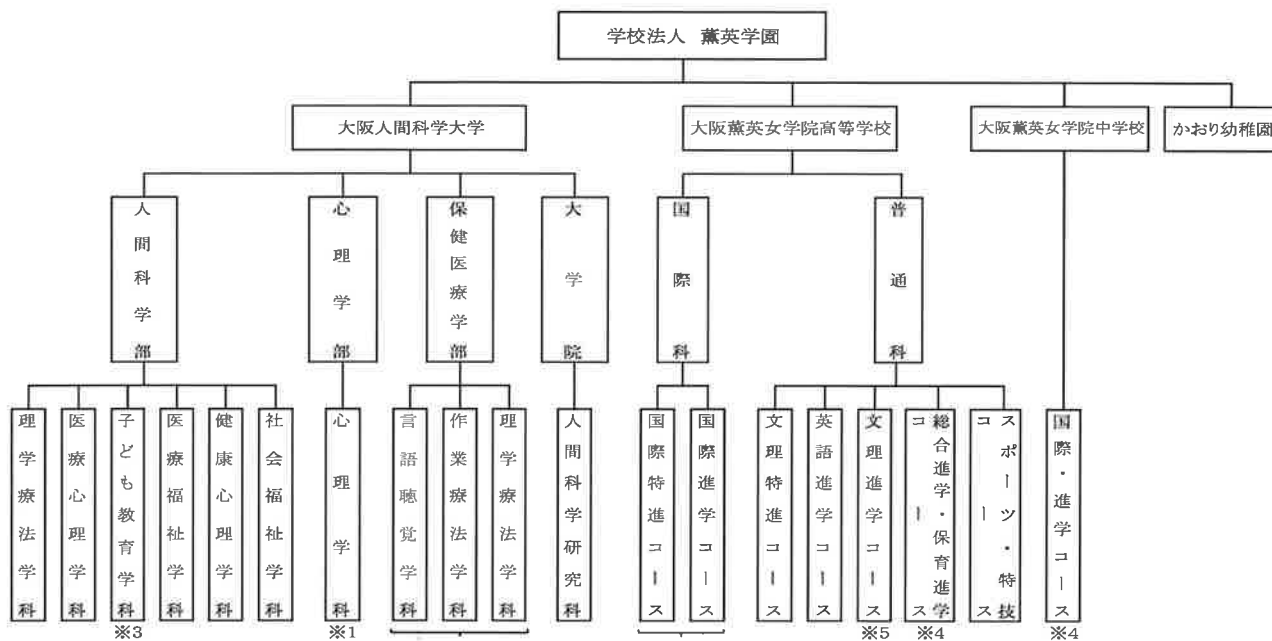
すなわち「人生は、衣・食・住が充たされただけでは幸福ではない。他より尊敬され、信頼され、愛されることが真の幸福である。互いに相敬し、相信じ、相愛し、明るき人生観に生きなければならない。」という建学の精神によって築かれる人間関係は、思想・信条や価値観の異なる人間との共生、環境との共生という、まさに21世紀に求められているテーマである「共生」を追求する根幹をなすものと考えています。

(3) 学校法人の沿革

昭和6(1931)年6月	私塾薫英女子学院創設(大阪市東淀川区木川)
昭和8(1933)年7月	各種学校令による私立薫英女子学院設立認可
昭和13(1938)年7月	薫英女学校(修業年限4年)に名称変更
昭和16(1941)年3月	財団法人 薫英学園設立並びに薫英高等女学校(修業年限5年)設置認可
昭和18(1943)年4月	全校生徒正雀学舎に移転完了(大阪府摂津市正雀)
昭和22(1947)年3月	薫英中学校設置認可
昭和23(1948)年3月	学制改革による薫英高等学校設置認可
昭和26(1951)年3月	財団法人薫英学園を学校法人に組織変更認可
昭和40(1965)年9月	薫英中学校廃止認可
平成2(1990)年4月	薫英高等学校普通科に国際コースを設置
平成8(1996)年4月	薫英高等学校に国際科開設
平成9(1997)年3月	大阪薫英女学院中学校設置認可
平成9(1997)年4月	大阪薫英女学院中学校開設 薫英高等学校を大阪薫英女学院高等学校に名称変更認可 大阪薫英女学院高等学校普通科に文理コース・総合コースを設置

(4) 設置する学校・学部・学科等【学園組織】

(令和5年5月1日現在)



※1 令和2年度から 心理学部 心理学科 を新設

※2 令和2年度から 保健医療学部 理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科 を新設

※3 令和3年度から 子ども保育学科 を 子ども教育学科 に名称変更

※4 令和3年度から 高等学校に 国際特進、国際進学、総合進学・保育進学 中学校に 国際・進学の各コース を新設

※5 令和4年度から 高等学校に 文理進学コース を新設

所在地

大阪薫英女学院高等学校（昭和16年4月開設）

〒566-8501 摂津市正雀1-4-1 TEL06-6381-5381

大阪薫英女学院中学校（平成9年4月開設）

〒566-8501 摂津市正雀1-4-1 TEL06-6381-5381

(5) 生徒数の状況

(令和5年5月1日現在)

設 置 校	入学定員	入学者数	収容定員	現 員
大阪薫英女学院高等学校	440	171	1,320	517
大阪薫英女学院中学校	120	32	360	88

(6) 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

設 置 校	令和3年度	令和4年度	令和5年度
大阪薫英女学院高等学校	0.46	0.42	0.39
大阪薫英女学院中学校	0.28	0.28	0.24

(7) 役員・評議員の概要 (令和5年5月1日現在)

形 態	定員	常勤	非常勤
理 事	9	5	4
評 議 員	19	10	9
監 事	2	0	2

(8) 教職員の概要 (令和5年5月1日現在)

設 置 校	教員数		職員数		計
	専任	非常勤	専任	パート タイマー	
大阪薫英女学院高等学校	45	14	11	10	80
大阪薫英女学院中学校	10	5	2	1	18

Ⅱ 中期的な計画及び事業計画の達成状況

[高等学校・中学校関係]

1 教育活動の充実

(1) 学科、コース

【高等学校】

学 科	コ ー ス
普 通 科	文理特進、英語進学、文理進学、総合進学・保育進学 スポーツ・特技
国 際 科	国際特進、国際進学

【中学校】

学 科	コ ー ス
———	国際・進学

2 海外体験（長期留学・短期留学・短期研修・修学旅行）

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により、ニュージーランドが渡航を解禁したことにより、中学生は留学する全員がニュージーランドで、国際科の高校生は希望によりニュージーランドもしくはカナダでの1年間留学を修了することができました。

また、普通科英語進学コースの短期留学、中学生の短期留学についてもニュージーランドで実施できました。

短期研修は昨年に続いてカナダのブリティッシュコロンビア州チリワックにおいて実施し、中学生、高校生の希望者が参加しました。

高校の海外修学旅行に関しては、7月実施の普通科及び国際科の中高一貫生はシンガポール、マレーシアで実施できました。3月に実施したスポーツ・特技コースに関しても昨年に続きシンガポールで実施しました。

世界情勢の不安定化や急激な円安がマイナス要因となる中でも工夫しながら安心安全な海外体験をめざしました。

(1) 長期留学

海外長期留学は、ニュージーランドとカナダにおいて高校生及び中学生が1年間留学し、英語力の習得はもとより、国際感覚の醸成や国際理解を深め、人間形成に努めました。

1988年にカナダ留学から始まった海外長期留学は今回で36回目、これまで約4,600名を超える生徒が留学に参加しています。

(2) 短期留学

普通科英語進学コースの短期留学(約5週間)もニュージーランドで再開することができ、7月23日(日)～8月27日(日)に実施しました。

また、中学生の短期留学(約3か月)では、長期留學生徒とともに1月にニュージーランドに出発し、入学式前に帰国しました。

3 生徒募集

少子化が進み、共学志向が強まる中で、喫緊の課題である生徒確保に向け、保護者・生徒(児童)対象の進学説明会や個別相談会、校内オープンキャンパスなどの開催に加え、学校・塾への訪問を積極的に行うなどの取り組みを行いました。

中学校では、これまでに引き続き、中高一貫教育とオリジナルの英語教育、海外体験をアピールしました。また、大手進学塾との連携も進めました。高等学校については、留学制度を中心とする国際的視野の涵養や英語教育及び有名大学への豊富な進学実績という、本校の特色をアピールして定員確保に努めました。

これらの募集活動の結果、高等学校募集では受験者数の増加とはなりませんでした。が、中学校募集においては、受験者数の増加という一定の成果がありました。

(1) 生徒・保護者対象進学説明会(W e b 対応を含む)

高等学校	(実施回数	10回	参加件数	798件)
中学校	(実施回数	8回	参加件数	189件)

(2) プレテスト

中学校受験希望者を対象に実施し、129名が受験しました。

(3) 塾対象学校(入試)説明会

春の説明会(学校内) 113塾 秋の説明会(ホテル) 110塾

4 「英検」(実用英語技能検定)の実績

令和5年度、本校に在籍する生徒の中で「英検」各級取得者数は、1級2名、準1級36名、2級247名、準2級392名、3級229名と大きな成果を収めています。特に、1年間留学体験をした国際科の生徒2人に1人が2級以上合格となりました。なお、高校生が取得できる割合が1%といわれる超難関の1級合格は22年連続を更新しています。

5 進学実績

進学実績は、中高一貫教育の強みを活かしながら、国公立大学や早慶上智・関関同立などの難関私立大学へ多数の合格者を出しています。令和4年度からは、参加することで生徒が自ら学ぶ力を高め、学習習慣の定着を支援する「薫英放課後学習支援システム(KAS)」を新たに導入するなど学力向上への取組みを一層進めています。

令和5年度の合格実績は延べ363名となり、国公立大学、首都圏難関私立大学、関関同立、産近甲龍をはじめ、外国語系大学等に多数の合格者を出しています。

6 Kun-ei Kids の実施

Kun-ei Kidsとして、小学校5・6年生を対象に、5月から11月にかけて8回にわたり英会話講座を開講し、53名の参加者がありました。参加者は、本校の様子を身近に知ることができるなど、本校受験への大きなきっかけとなっており、募集対策の一環ともなることから、引き続き内容の充実に努めました。

また、大阪人間科学大学人間科学部子ども教育学科の学生が講座の合間にアクティビティを担当し、学生にとっても良い実習の機会となりました。

7 薫英杯女子中学生英語スピーチコンテストの実施

ニュージーランド、カナダの両大使館、大阪府教育委員会などの後援を得て、文化の日に実施しました。当日は、定型暗誦のスタンダードの部と自由暗誦のアドバンスの部の2部門に分かれて、言葉と身体表現をリンクさせて聞いている人の心に残る発表がありました。併せて、Kun-ei Kids参加者の小学生が参加し、英語の発表を披露しました。司会は、短期留学を経験した高校2年生が担当しました。

8 その他(クラブ活動実績)

(1) 陸上競技部

ア. 陸上競技部は、秩父宮賜杯第76回全国高等学校陸上競技対校選手権大会(全国インターハイ)の1500mと3000mの2種目に塚本夕藍が出場しました。全国インターハイは37大会連続の出場となりました。

イ. 全国の強豪校が参加した南部忠平杯第38回くらし女子駅伝競争大会において、第2位になりました。

ウ. 女子第39回大阪高等学校駅伝競走大会において優勝し、大阪府の代表として女子

- 第 35 回全国高等学校駅伝競走大会に 18 年連続 18 回目の出場を果たしました。本大会では第 4 位となり、4 年連続 10 回目の入賞を果たしました。
- エ. 皇后杯第 42 回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会に高校生 1 名と卒業生 3 名が選手として出場し、第 6 位入賞を果たしました。また、全国の強豪校が参加した第 35 回選抜女子駅伝北九州大会においては第 3 位となりました。
- オ. 全国の強豪校が参加した第 16 回西脇多可新人高校駅伝徒競走大会において、2 大会連続 5 回目の優勝を果たすとともに、第 40 回春の高校伊那駅伝 2024 においては第 2 位となりました。
- カ. 卒業生の前田穂南さん（天満屋）が第 43 回大阪国際女子マラソン大会で 2 時間 18 分 59 秒の日本新記録・アジア新記録を樹立しました。これは 19 年ぶりの記録更新です。その後の他大会の結果を待って、正式にパリオリンピックの女子マラソン日本代表に決定しました。前田さんは 2 大会連続の五輪マラソン出場です。

（2）バスケットボール部

- ア. 高等学校バスケットボール部は、6 月の第 78 回大阪高等学校総合体育大会バスケットボール大会において優勝、第 70 回近畿高等学校バスケットボール選手権大会も優勝、8 月の第 76 回全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会（インターハイ）は第 3 位でした。
- イ. 10 月のかごしま特別国体 2023 の少年の部において、本校生の 11 名が大阪府代表として出場し、ベスト 8 になりました。
- ウ. 第 76 回大阪高等学校バスケットボール選手権大会（ウィンターカップ予選）に優勝し、12 月の第 75 回全国高等学校バスケットボール選手権大会（ウィンターカップ）はベスト 8 でした。
- エ. 9 月から 11 月まで長期に渡って行われる U18 日清トップリーグでは 8 チーム中の 4 位となりました。トップリーグとは、令和 4（2022）年度に新設された、U18 世代最高峰のリーグ戦で、選出基準を満たした U18 世代のトップチーム（男女各 8 チーム）がリーグ戦日本一という U18 世代の新たなタイトルをかけて、数ヶ月にわたるリーグ戦を戦うものです。

（3）ソフトテニス部

- ア. 高等学校ソフトテニス部では、6 月に大阪高校ソフトテニス春季大会の団体戦ではベスト 8 となりました。10 月の大阪高等学校新人ソフトテニス大会の個人戦では加藤楠菜・米田奈央ペアがベスト 16 となり、1 月の近畿高校選抜大会に出場しました。

（4）囲碁部

- ア. 高等学校囲碁部では、1 月に大阪府高等学校囲碁冬季大会において、昇栞菜が女子の部で第 2 位になり、令和 6 年 8 月に行われる第 48 回全国高等学校総合文化祭（清流の国ぎふ総文 2024）に大阪府代表として出場予定です。

イ．３月に行われた第１８回全国高等学校囲碁選抜大会の女子９路盤戦において、昇菜が優勝しました。

以上